



太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和7年3月号(第13号)
令和7年2月28日発行

【学校教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

喜んで登校 満足して下校

【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

贈る言葉の代わりに

校長 藤田 昌一

先月号で「校歌の音階の謎」について取り上げたところ、保護者の皆様や地域の皆様から様々な情報が寄せられました。心より感謝申し上げます。音階が変わったのは、平成16年～17年頃の様子です。いただいた情報を手掛かりに、私も学校にある資料を紐解いてみたいと思います。引き続き、情報提供をお待ちしております。

*

さて、私は校長として、3月の学校だよりには、卒業生に向けた激励の言葉を記してきました。ところが、昨今の社会情勢、経済の状況、気象状況、日本内外で起こる事件や事故などを踏まえた時、「贈る言葉」を一つに絞ることができませんでした。

そこで、卒業生の皆さんには、一冊の本を紹介したいと思います。

『あなたの言葉を』 辻村深月

辻村深月さんは、小説家で、『ツナグ』『かがみの孤城』等が有名です。映画『ドラえもん のび太の月面探査』の脚本も担当し、小説にもなっているので、知っている人もいることでしょう。

この本は、辻村さんが『毎日小学生新聞』に、月一回連載している文章を本にまとめたものです。ですから、卒業生はもちろん、中・高学年ならば十分に読めるように書いてあります。

私がこの本を紹介しようと思った理由の一つは、連載が始まった時期が、“コロナ禍”と重なっていて、その時のことを思い出しながら共感できることです。卒業生の皆さんも、まさに、入学の時からコロナの影響を受けていますよね。

理由の二つは、大人になった辻村さんが、子どもの頃感じたことを振り返ったり、その時の気持ちを整理して言葉にしてくれたりしていることです。皆さんも、表現できないモヤモヤやイライラなど、心の中に抱えている言葉にできない感情があることでしょう。それを、小説家が言葉にしてくれています。きっと、この本のどこかに、大切な「あなたの言葉」が見つかると思います。

「どうしてそうしてしまったのか考える」ということにこそ、意味があると思うのです。(p39-40)

運動をすると体が鍛えられるのと同様に、本を読むと心が鍛えられます。(p118)

「好き」でい続けることで、「得意」がこちらをある日振り返ってくれることも、きっとある。(p151)

私は、「あなたの言葉には力がある」と子どもに言える大人になりたいです。(p189)

*

結びに、令和6年度の教育活動も残すところあとわずかになりました。ご支援ご協力をいただきました保護者の皆様、地域の皆様をはじめ、本校に関係する全ての皆様に、深く感謝申し上げます。